

No.12 2025年 2月 16日

受難節前第三主日礼拝  
 説教『神の委託に応えた歩みはどこに』  
 山根 眞三 師  
 司会 市川 真美恵 さん  
 奏楽 白石 百合子 さん  
 招詞 ピリピ人への手紙2章12～13節  
 主の祈 (564)  
 讚詠 5 4 6  
 交読詩編 詩 1 8 編 21～51節  
 祈禱  
 讚美歌 21 - 4 7 2  
 使徒信條 (566)  
 聖書 マタイ福音書20章1節～16節  
 説教 (口語訳31頁、新共同訳38頁)

『神の委託に応えた歩みはどこに』  
 祈禱  
 讚美歌 3 3 8  
 献金  
 感謝報告  
 報栄 5 4 3  
 祝禱  
 後奏

次週の礼拝(受難節前第二主日礼拝)  
 説教『種蒔きの譬えが意味する生』  
 ルカによる福音書 8章4節～15節  
 招詞ヘブル人手紙4章12～13節、交読詩編15編  
 讚美歌 546、21-195、234A、544

礼拝当番  
 今週 16日 司会 市川さん 献金 剛家さん  
 次週 23日 司会 高橋さん 献金 根角さん  
 会堂清掃奉仕 2月21日(金)  
 午後4時～ めぐみ幼稚園保育者

本日の集会

★教会学校 午前9時45分  
 ★コーヒータイム 礼拝後～  
 密に注意し、それぞれの思いを語り合しましょう。  
 ●レコードコンサート 午後1時～3時30分  
 プフィツナー「パレストリーナ」より3つの前奏曲  
 モーツァルト 交響曲第四〇番短調K550  
 ブラームス 交響曲第四番ホ短調Op98

今週の集会/スケジュール

§広島拘置所教誨奉仕 2月19日(水)13:30～16:00  
 施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。  
 ※めぐみ幼稚園発表会 2月21日(金)10:00～11:30  
 子ども達の発表する姿に神様の祝福があるように  
 覚えてお祈り下さい。

次週以降のスケジュール等

★聖書を読む会 2月25日(火)10:30～  
 黙示録を通して聖書を学びましょう  
 ※めぐみ幼稚園わくわく実験室 2月27日(木)10:00～11:30  
 子ども達が出会う実験を楽しみにしましょう。  
 ★3月定例役員会 3月2日(日)13:00～  
 教務・教勢報告、会計報告、教会総会の準備について  
 教会共同墓について、分区全体会について  
 教会役員の仕事と健康を覚えてお祈り下さい。  
 ★信徒会主催3.11記念チャリティコンサート 3月  
 8日(土)14:00～ 会場:広島牛田教会  
 ヒロシマハンドベルリンガーズも参加します。  
 一人でも多くの方のご参加を願います。  
 ※学校法人広島西部教会学園理事会・評議員会  
 3月9日(日)13:30～15:30  
 中間決算および新年度予算について協議、  
 休園について協議、審議します。  
 幼稚園について覚えてお祈り下さい。

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	2	6	8

◇今週の説教要旨(受難節前第三主日礼拝)  
 『神の委託に応えた歩みはどこに』マタイ福音書20:1～16  
 親しいカトリックの神父先生が講話されることで  
 先週カトリック観音町教会でのキリシタン殉教者ミ  
 サに出席し、知らなかったことを示された。一つは  
 1613年広島にハンセン氏病の収容所があり、キリシ  
 タンがそれらの方々の世話をしていたことと広島で  
 もキリシタンの殉教があったことを確認した。キリ  
 ストを信仰した広島の人が迫害にも負けなかった。  
 カトリック、プロテスタントに拘わらず、ヒロシマ  
 に生きるキリスト者として勇気を与えられるものだ。  
 主イエスは天国についての譬えを教えられた。マ  
 タイは律法に神の名をみだりに唱えてはならないと  
 あることから、他の福音書では神の国と呼ぶところ  
 を天国と称した。この譬えにとって大切なことは葡  
 萄園で働きたいと願った労働者は誰一人としてその  
 機会を失っていないことだ。これは私たちの人生が  
 すべて神から守られ、導かれていることを暗示して  
 いる。しかもすべての労働者が一日一デナリを保証  
 されていることだ。しかもその労働に対する報酬が  
 労働時間の最も短かった人から支払われたことだ。  
 最も朝早くから働いた労働者は、最も短かった人と  
 同一賃金であることに異議をさしはさんだ。これら  
 の姿を示され、私は自分の人生への評価を見る思い  
 がするのだ。今年の3月末で私は広島西部教会の牧  
 師として57年努めてきた。私の心の内には、早朝か  
 ら働いた労働者の思いと同じような気持ちがある。  
 あの一時間しか働かなかった労働者に比して、私は  
 57年も働いてきた。私の自分自身への自慢は57年の  
 毎日曜日、一年52回のうち、講壇を休んだのはコロ  
 ナとくも膜下出血の休みを含め4回だけだというこ  
 とだ。よく働いたと思うのだが、あの早朝から葡萄  
 園で一生懸命おそらく感謝しながら働いた労働者を  
 考えてしまうのだ。他の彼らがそのように報いられ  
 た。ならきっと私はもっと褒められるのではないかと…。